

令和2年を門松でお祝い

高校生が市に手作り門松を寄贈

12月27日、田川科学技術高等学校の土木コースの3年生7人が市役所を訪れ、玄関前に2基の門松を飾りました。

これは、学校の特色と専門性をいかして地域に貢献する同校の取り組みで、同コースによる門松の制作・寄贈は昨年引き続き2回目。今回は、同校生命科学科が育てたハボタンのほか、学校のマスコットキャラクター「カーギー」や干支の「子」を題材にした木工作品を添えるなど、趣向を凝らして仕上げました。

3年生の岩下^{いわた}^{みづた}さんは「令和の門出を祝うため、昨年よりも華やかに飾りました。市民のみなさんに喜んでもらえたら嬉しい」と話しました。



▲令和2年。卒業・就職を控えた7人は飛躍の年を迎えました



▲乗客で賑わうマルシェ。温かいホルモン鍋が人気でした

田川の名産でおもてなし

田川伊田駅deメリークリスマス

12月22日、田川伊田駅平成筑豊鉄道ホームで「メリークリスマス」が催されました。

これは、JR九州の企画で運行するSL人吉号が同駅に停車する時間に合わせ、乗客を田川の名産でもてなそうと(株)デザインステーションが企画した催し。この日は、田川産ピュアパブリカのスムージーやホルモン鍋、新鮮な野菜などさまざまな特産品が並び、約100人の乗客を迎えました。また、同じ時間に平成筑豊鉄道の「ことこと列車」も停車。訪れた人々は貴重な列車の共演を楽しみました。

福岡市の安武^{やすたけ}蔵^{くら}乃^{のぶ}介^{けい}くん(5歳)は「おばあちゃんに野菜を買ってもらった。食べるのが楽しみ」とにっこり。

人権コラム：Vol.9

●問い合わせ

人権・同和対策課 ☎85-7133



すべての人が人間らしく幸せに生きるために

もうすぐ4月ですね。卒業や入学、就職など、環境が変わるとともに、新しい出会いが増えていきます。新しい出会いの場面で初めて会う人を前に、あなたはどんなことを想像しますか。

社会は、性別・年齢・国籍・障害の有無など、さまざまな違いを持った人で成り立っています。しかし私たちは、どうしても自分が持っている「固定観念」から他人をとらえてしまいがちです。人は、ひとりで生きているわけではありません。その人自身を個人として尊重し、お互いに支え合ってさまざまな個性を認め合うことで「すべての人が人間らしく幸せに生きる」社会の実現が可能となるのです。

あなたが新しく出会った人だけでなく、周りの家族や友人にも、その人だけの個性があります。固定観念から他人をとらえるのではなく、まずは身近な人から、その人がどんな人なのか、もう一度考えてみませんか。